

1 日 時 令和7年11月6日(木) 午後1時30分～2時45分

2 場 所 坂戸保健所 多目的ホール

3 出席者

【委 員】山里將瑞委員、成川真也委員、杉澤満委員、宗村雄大委員、神山徳美委員、  
水野美来委員、新井智代委員、秋元圭子委員、鈴木帆委員、大木英生委員、  
松本正人委員、益子政江委員、虎谷紗也香委員、筑波優子委員、荻原久美子委員、  
堀口芳之委員、小澤拓委員、岡田庄一委員、岡安徹也委員、荒井和子委員  
(欠席者：吉松栄彦委員、藤野真美委員、福島康高委員)

【事務局】坂戸保健所、東松山保健所、川越市保健所

#### 4 議題

- (1) 令和7年度保健所現状報告、令和6年度協議会の振り返り
- (2) 協議及び発表 テーマ「1年間に実施した支援」
- (2) 患者委員及びヘルパーからの意見・発表 テーマ「1年間支援を受けて感じたこと」

#### 5 議事内容

- (1) 保健所現状報告、令和6年度協議会の振り返りでは、事務局からの報告と参考資料の説明が行われた。
- (2) 協議では、3つのグループに分かれて話し合い、発表した。

##### 共通の課題

- ・医療・福祉の連携強化：ALSといった難病患者、医療的ケア児など、いずれも多職種の協力が必要であり、看護師やヘルパーの確保、事業所間の調整が課題となっている。
- ・コミュニケーション支援の充実：人工呼吸器装着時の意思伝達や装置の整備、小児や外国人相談における情報共有・文化理解など、円滑なコミュニケーションを支える仕組みが不足している。
- ・在宅支援体制の強化が重要：訪問看護、レスパイト導入など、在宅ケアの充実が共通課題であり、家族への支援も不可欠とされている。
- ・制度面・金銭面の改善が必要：介護保険対象外や加算不足、医療費立替えなど制度上の制約があり、金銭的負担軽減の要望が多く挙がっている。
- ・研修や情報共有の仕組みが不足：ALS や医療的ケア児対応に関する専門研修や移行期医療の不足、災害時対応や地域連携の情報共有体制の強化が求められている。

- (3) 患者委員及びヘルパーからの意見・発表の概要は、以下のとおり。

- \* 事業所担当者会議を開き、災害時対応を協議した。今できる現実的な対応として、停電対策に重点を置き、発電機や蓄電池の確認、呼吸器の予備準備を実施した。
- \* 在宅介護では夜勤ヘルパーの負担が大きいとの意見があった。

##### 全体のまとめ

患者委員の発表を通して、介護・看護が必要な患者に対する、家族以外の支援の重要性、地域の包括的な支援体制の必要性が明らかになった。

今後、行政、医療機関、地域住民が連携し、患者とその家族が安心して生活できる環境を整備していく必要がある。